

「あいさつ」

「今、放哉が注目されている」

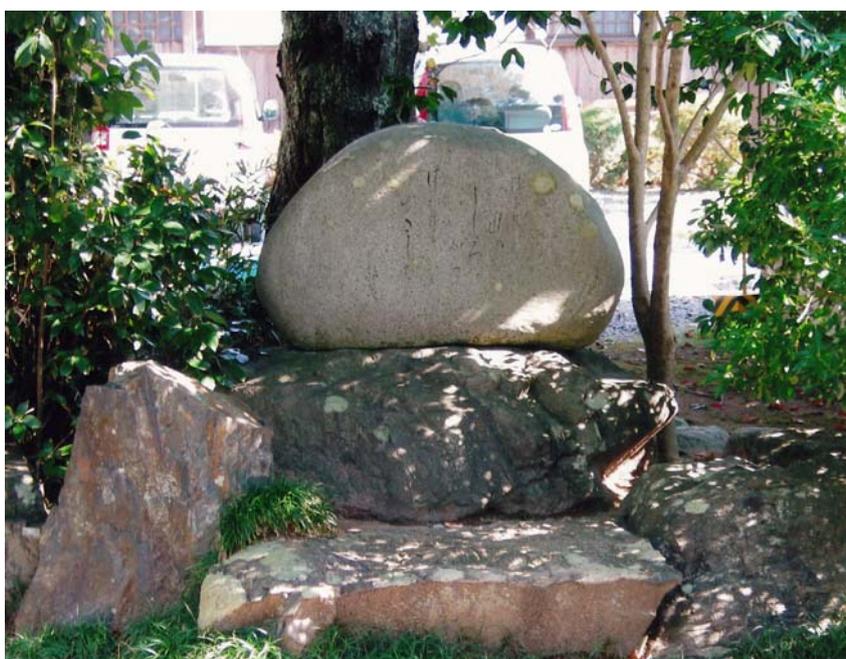
平成十三、十四年度には『放哉全集』が刊行され、平成十年には俳優の片岡鶴太郎氏が放哉の俳句を素材にした俳画集『いれものがない両手で受ける』を出版しました。また、テレビや新聞で取り上げられるなど、鳥取県出身の俳人では注目度一番といえるでしょう。大正十五年（一九二六）に死去した放哉の俳句が二十一世紀の私たちの心を捉えているのはなぜか。それにはいくつかの意見があるようですが、その解明は専門の研究を俟つことにしましょう。

ところで、県立図書館では、県内で放哉の顕彰や研究をしていた方々からご寄贈をいただいた放哉関係の資料を保存しています。今回、郷土文学者情報発信事業を行うにあたり、その資料目録を作成しました。放哉の遺した原稿・手紙・はがきや放哉の写真などは『放哉全集』に採録されていますが、その他の関係資料を含めて目録を公開します。これらの資料が有効に利用され、本県出身の俳人尾崎放哉の研究や見直しが進むことを期待します。

平成二十一年四月

鳥取県立図書館長

森本 良和



尾崎放哉興禅寺（鳥取市栗谷町）句碑

尾崎放哉肖像



目次

一(あいさつ)

一 資料解説

鳥取県立図書館収集資料

村尾草樹旧蔵資料

古川幸雄旧蔵資料

凡例

二 資料目録

(一) 鳥取県立図書館収集資料

(二) 村尾草樹旧蔵資料

(三) 古川幸雄旧蔵資料

一

三

三

四

五

六

八

二

一